

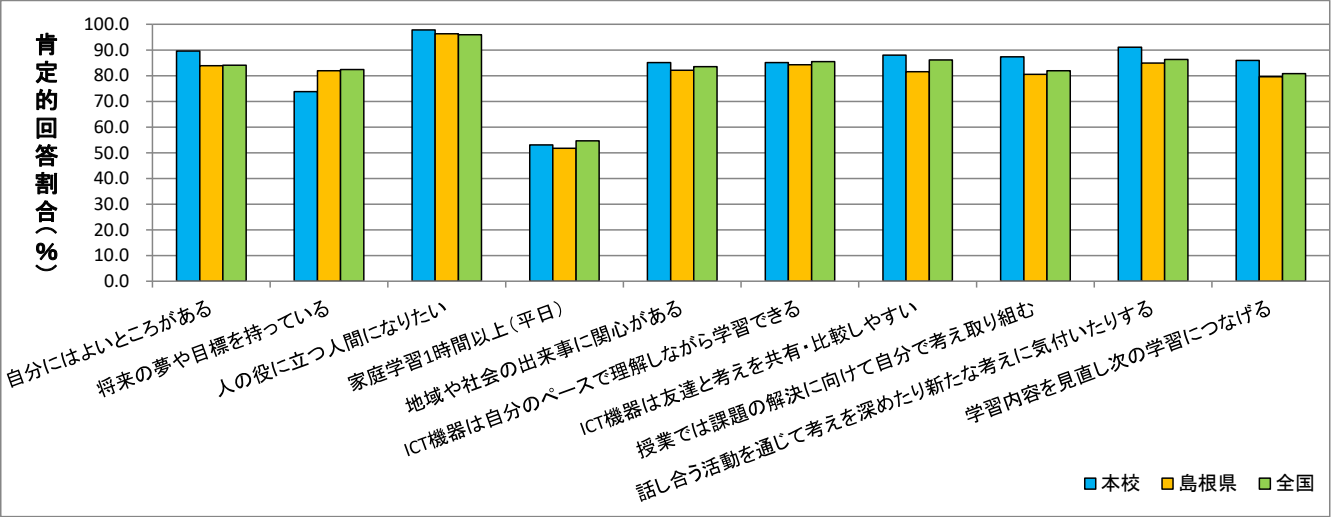
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○主述の関係を意識して文章を書いたり、読み取ったりすることができる。 ○条件付き作文では、条件を基に文章を組み立てることができる。 ○目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書けている。 ●話すこと・聞くことに対する設問の正答率が低く、話し手の工夫聞き手の工夫を理解することに課題がある。 ●集めた材料を分類、関係づけて考える力に課題がある。 ●語句の意味が分からず、心情が理解できていないところがある。	・話す、聞かときの視点を意識できるように、学習場面における児童の目指す姿をまとめた「乃木っ子の学び方」を活用して振り返ることができるようにする。 ・複数の情報の関係を図示したり、要約したりしながらつながりを考えられるように指導する。 ・語句の意味を知るだけでなく、前後の文脈を考えて、どのような意味がふさわしいか考えられるように指導する。
算数	○どの領域においても全国平均を超えた正答率になっている。 ○最後まで粘り強く取り組んでいる。無回答率が低い。 ○各学年相当の基礎的な計算の力が付いている。 ○選択式、短答式の回答率は全国平均を上回っている。 ○記述式の回答率は全国平均をやや上回っている。 ●小数のわり算に関する正答率が低い。 ●折れ線グラフなどの資料の読み取りと条件を使った文章での回答率がやや低い。	・文章や言葉で立式を説明をするなどの機会を授業の中で取り入れていく。 ・問題文の中で「分かっていること」や「問われていること」を整理し、図や表にまとめて考える活動をていねいに行い、定着を図る。

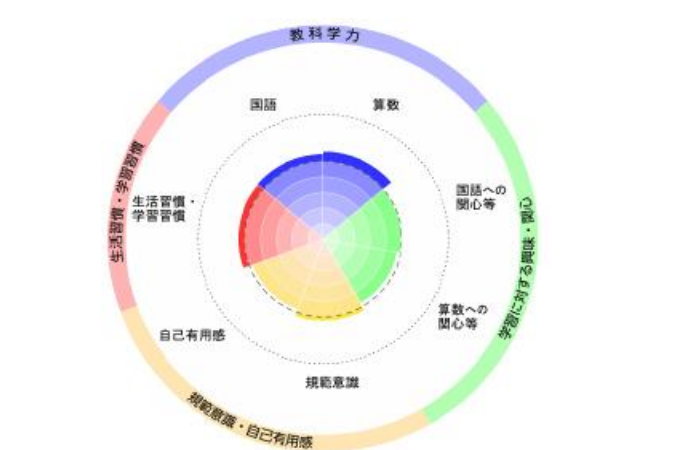
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○友達や教師との関係が良好である。 ○見通しをもって、学んだことを整理しながら、学習の自己理解を深めている。 ○一日あたりのゲームの時間が全国の割合よりも大幅に少なく、家庭学習に費やす時間が多い。 ●国・算・理・外の4教科への学習意欲は低い。 ●学習したことが日常の経験とどうつながっているのかを意識することが少ない。	・教科の見方、考え方を意識した、発問や指示を通して、「わかる」「できる」という学びの実感がもてる学習にしていく。 ・授業の終末や単元のまとめの段階で、学んできた知識を活用して考える問題を設定し、学びをアウトプットしたり、転用したりする経験を増やす。

(3)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・授業で目指す児童の姿をまとめた「乃木っ子の学び方」を日頃から意識して教育活動を行っていく。

【受検者数】
126 名